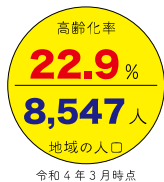


# 住民が主役の“つなぐ”まちづくり



十五夜での綱引き

## 地区概要

JR 日豊本線帖佐駅の南側に位置し、利便性の高い地区。子育て世帯が多く住み、人口は増加傾向にある。平成27年には松原なぎさ小学校が開校。自治会加入率が68%。

## コミプラ設立の経緯

平成26年に設立準備委員会を立ち上げ、住民説明などを行い、平成27年に「松原なぎさ校区コミュニティ協議会」を設立した。4つの自治会、小中学校、企業、NPO法人、福祉施設等で連携して活動を行っている。

## 特徴的な活動

### ①気軽に集える場所づくり

高齢者をはじめとする地域住民が気軽に集える場所「ひまわりハウス」を、空き家や自治公民館を活用して、地区内5か所においてNPO法人と連携して運営している。ひまわりハウスでは、歌や踊り、手工芸などのサークル活動をはじめとし、認知症予防講座やパソコン教室などの生活に役立つ活動まで幅広く行われている。

また、子どもたちの学習支援を行う「なぎさ未来塾」や子ども食堂「わいわい食堂」といった、子どもたちの居場所づくりにも取り組んでいる。地域住民が学習支援や食事作りなどを行うため、子どもの貧困や孤独に対する取組となるだけでなく、世代間を超えた幅広い交流の場となっている。



ひまわりハウスでの「わいわい食堂」

### ②認知症見守り訓練

認知症についての講話のほか、実際に道に迷っている高齢者を想定した実地訓練を行っている。

この訓練は認知症サポーター養成講座を兼ねており、地域住民をサポートとして

育てることで、地域全体で認知症高齢者やその家族を支える体制づくりを図っている。また、このような活動を通して、住民の高齢者に対する理解を深め、高齢者が認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活できるようなまちを目指している。



認知症模擬訓練写真



認知症を想定した寸劇

## 今後の展望（コミプラの声）

松原なぎさ地区は始良市内で最も高齢化率が低く、人口も増加傾向にある。しかし、子育て世代の参加が乏しいため、今後このような人々や現役世代を巻き込んだ活動を進めていくことが重要であると考えている。

## 始良市から一言

松原なぎさ校区コミュニティ協議会の活動は、まさに「安心して子育てが出来る」「高齢者が住み慣れたまちで安心して暮らせる」「子どもがふるさととして誇りに思える」まちづくりを支えるものと感じています。「人の和で 明るく住みよい 伸び行く “なぎさ”」というスローガンを掲げ、各専門部を中心に幅広い活動を行っており、大変期待しています。行政も引き続きコミュニティ協議会と連携しながら、住民が安心して暮らせるまちづくりを行っていきたいと考えています。

## 利用した補助金など

- ・始良市校区コミュニティ運営補助金（市）（H27年度～）
- ・始良市校区まちづくり事業補助金（市）（H30年度～R2年度）
- ・始良市企画提案型校区活性化事業補助金（市）（R3年度～）
- ・子どもゆめ基金助成金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）（R元年度～）



始良市 / 松原なぎさ校区  
コミュニティ協議会

Passion

地域の大人を巻き込むべし！